

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100179		
法人名	合同会社 悠久		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	熊本県球磨郡多良木町久米1325番地		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域に恩返しをしたいと思いを込め開設させて頂き、3年目を迎えました。自然豊かな田園風景の中、神社やお寺が密集した地域にあり、機会ある度に行事や祭り等へ参加し、入居者様に刺激を頂いています。恒例となった保育所・小学校との交流会。敬老の日には近隣地区の一人暮らしの方を招待し、合同で行う敬老会。家族様との関係維持のため、秋には家族会・お月見会等を行っています。町の福祉避難所にも指定されており、防災訓練にも力を入れ、防災意識の高いグループホームです。入居者様一人ひとりが今までの暮らしを、可能な限り安心して出来るよう、ご家族様・協力医・地域住民との連携を大切に、職員一人ひとりが入居者様と向かい合ったケアを目指しています。また、地域に商店が無くなりつつある今、買い物に不自由な方のため2ヶ月に1度、朝市を開催しています。3年目となり朝市も定着しつつあり、朝市を通じて入居者様・地域住民の方同士の交流の場としても活躍しているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年、高齢化の進む中での一人ぐらいを支えるとして在宅生活困難者を優先しての入居、朝市開催、敬老会では地域高齢者の招待、家族との交流促進、保育園や小学校との相互交流及び地域の防災の拠点としての存在等この地にホームが出来た存在は大きく、地域の中での確固たる基盤が築かれている。また、職員個々の思いの深さや余裕を持った見守りを重視する姿勢は、「夢の実現」とした企画や「球磨川鉄道の旅」等に表れている。管理者を中心として職員の変動もない働きやすい職場は、馴染みの関係性の中でのゆっくりとした日常、一方で企画した行事とメリハリのある非日常等はサービスの質の確保に向けた大きな要因である。入居者のこれまでの営みを継続させる職員の姿勢は大いに評価したい。朝市を通じた地域の活性化等継続した運営も、この地への恩返しとして設立された思いの実現である。認知症の進行に伴い思いを発することも難しい現状に、職員の寄り添う姿勢や察する力にも敬意を表したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール・休憩室等に日頃より目視出来るように 掲示し、より理念を共有・理解し、皆が意識を高く持って業務に就けるようにしている。	昨年度、平易な言葉に見直した理念は掲示により意識付けとしている。また、手厚いケアにしたいとの思いは職員の採用数に表れ、地域への恩返しを視野にした運営が更にこの地の中での充実した生活とともに、確固ある基盤が築かれている。地域密着型事業所としての社会的役割を、温かい地域住民の方々と共に…とする理念に込め、住民・家族も巻き込みながらの日常とともに、入居者9名と職員との温かい家庭が形成されたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域の行事等へ参加。保育園・小学校との交流会。地域の方も一緒に参加されての避難訓練。朝市開催により入居者様と地域の方の交流が生まれお互いの楽しみとなっている。回覧板にも加えて頂き、今後も地域との付き合いが密になるよう取り組んでいる。	地域の中での生活基盤が更に拡充されたホームであり、一人暮らし高齢者の敬老会や七夕のそうめん流しとする食事会への招待、十五夜の綱引き行事や夜間帯の避難・消火訓練等このホームを取り巻く住民との交流に精力的に取り組んでいる。また、ホーム便りや朝市のチラシ等が地域への啓発の一環として生かされている。地域住民から優しく見守られていることも、神社に奉納された菊が玄関先を彩る菊に表出している。地域の一人としての入居者支援や、地域の声にこたえるホームの姿勢に敬意を表したい。	入居者が地域住民の一人として過ごされることは、職員はもちろん地域住民の協力も要因の一つである。福祉避難所としての役割も担われており、今後も地域の活性化の一役を担われるであろうと大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の日頃の生活の様子・勉強会・研修会等で得た認知症に関する知識を生かし、より認知症への理解を求めながら支援を行っている。また、地域の方・ご家族様への認知症に対する理解を深めて頂いている。運営推進会議等にて支援状況の報告・情報提供を行い、外部からの意見も広く求め、より良い支援に繋がるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・地域住民代表・地域包括センター・役場等をメンバーとし会議を行っている。 入所者様状況や活動等を報告したのち質疑応答を行っている。運営推進会議を基に地域の方の参加による合同の防災訓練を実施している。 また、会議報告を花みずき便りとして発行し、回覧板にて近隣地区に配布している。会議に参加できない家族様には花みずき便りをもって報告させて頂いている。	定期的開催する運営推進会議は、日々の生活状況を報告し、外部評価結果による意見交換や身体拘束等の適正化等活発な意見が交わされ、身体拘束廃止委員会もこの会議とし、外部者としてスピーチロック等を見て意見をいただいている。運営推進会議に合わせた避難訓練等も組み入れ、工夫している。更に、花みずきだよりを発行し、広く周知を図っている。区長からの活性化助成金の活用等の情報も活用し、テント購入につなぐ等意見や情報をサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、町の担当者や地域包括センター職員に参加してもらい、会議の中で地域・町・包括・事業所とそれぞれの意見を出せるような雰囲気心がけている。	行政、包括支援センター等、運営推進会議を通じ、ホームの実情を発信、情報の提供により意見をもらう等協力関係が築かれている。役場とは日頃から研修会の案内をもらうほか、処遇改善など電話で相談・確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修により身体拘束となる具体的な行為や弊害について繰り返し勉強会を行っている。入居者様一人ひとりの性格や行動の把握に努め、周辺環境の調整を行いながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」をしたホームでは、ドクターズネットやグループホーム連絡協議会等の研修、ホーム内での研修などの勉強会により意識強化や不適切なケアがないよう常に注意喚起している。管理者は、特に馴れ合いにはならないよう指導している。また、余裕を持たせ、ストレスのはけ口が必要として有給休暇の推奨や慰労会等を開催している。転倒リスクの高い場合には人感センサーを使用する場合もあることを家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法など関連法について、勉強会・研修・回覧等にて知識と意識を高め、職員どうしが気づき・注意し合える関係づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当グループホームでは制度利用者はいないが、研修・勉強会にて職員が制度を正しく理解出来るように学ぶ機会を設け、知識向上を行いながら、入居者様の権利が守られるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には本人・家族様に重要事項説明書に沿って説明を行い「保険分」と「自費分」を分かりやすいよう説明している。また、入居前にはホーム内の見学を行い納得して頂いた上、締結を図っている。解約時にも本人・家族様の意向に沿った方法にて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用料の請求の際には、毎月の居者様の生活状況などを担当者により手紙に書き、送っている。 面会時や入居者様の誕生日会・家族会を設け意見を頂いている。 ホームには意見・苦情箱も設け、ご家族様からの意見を反映しやすいよう取り組んでいる。	家族には、毎月の便りにより入居者の日々の生活状況を報告するとともに、この中に苦情等を記載するスペースを設けている。家族の面会やイベント参加時及び家族会時等意見要望を聞き取りしている。また、意見等言っていたく事で改善に努めたいと意見箱を設置している。家族会や運営推進会議も問題提起の場となり、入居者の声にも耳を傾け、“したい、行きたい”を実現させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス・申し送り時を利用して職員の意見を出しやすい職場作りに努めている。個人面談も行っておりより良い意見・提案の場に繋げている。	カンファレンスや申し送り等日頃から職員からの意見や提案が多く出され、管理者は、気になる場合には面談を行っている。職員の気づきあるケアは、居室環境や、入居者の思いの実現として表出している。管理者を中心として、風通しの良い環境も意見・提案を出しやすいという環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮して、やりがいのある職場。向上心が持てるような就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、研修を受ける機会の確保や要望を受け入れている。 職員が学びたい研修等がある場合には積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉球磨GH協議会への参加を通じて、周りの見聞を広め、交流することで質を高められるよう取り組んでいる。その他研修・勉強会等にも参加し質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談を行い、本人様の困りごとや不安・要望などを聞き出し、支援方針を決めることとしている。 入所された後にも安心・安全に生活を送って頂けるよう、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確な情報提供を求め、困りごとや要望を伺いながら、実現に努めている。 また、毎月のお便り(入居者様の日々の生活状況等)や特変時・通院時等の際にもこまめに報告・連絡を行いながら、安心な関係・環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前は、訪問・見学をして頂き、直接面談し、その人に合った支援を本人様・家族様・ホーム・医療機関とも連携しながら、適切な支援方法を行えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に体操やレクリエーションをしたり、食事も一緒にテーブル席で同じものを食べ1日を共に過ごしている。 また、家事動作等、一人ひとりが特徴を生かせるような役割を持って頂きながら、互いが助け合えるような関係・環境が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族様に日々の生活状況などを記入し郵送している。 また、受診報告や体調の変化があった際等にも小まめに家族様へ報告・連絡を行っている。 遠方の家族様がおられる入居者に電話の取次ぎなど何時でもできるように対応している。面会に来られた際には、本人様居室にてゆっくりと家族様との時間が過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人・友人の面会時等には居室にてゆっくり過ごして頂くようにしている。 遠方より家族様が帰省された際には、外泊・外出等により、これまでの馴染みの関係の継続に家族様の協力も得ながら支援している。	朝市等ホームに訪れる住民との顔なじみの関係や、地域へ当番としてお茶接待をしていた場所(観音様)へのお参り、馴染みの美容師によるヘアセットやお化粧等入居者が関わってきた関係性を継続して支援している。家族や・知人等の訪問も多く、外泊や買い物など家族の協力も大きい。慣習(十五夜のお供、春は牡丹餅・秋はおはぎ等)、おくんち祭りではつぼん汁等入居者がこれまで行われてきたであろうことを支援している。まず、方言での会話等がなにより物語るように、入居者、職員との関係が馴染みの関係が出来上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を日々の関りより把握しながら入居者様一人ひとりが孤立することのないように入居者様同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様より相談があった時には、本人様のこれまでの習慣・好み等また、ケアの情報等をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや希望は日常の関わり合いにより汲み取れるように支援している。 意思疎通の難しい方は選択できるような声掛けや、表情・行動等により推察するなど、本人様の意思決定に寄り添えるような支援をしている。	常日頃から入居者の思い等が把握できるように、バリアをはり、歌番組を見ながらの何気ない会話も聞き洩らすことなく、意思表示が出来る限りは出来る範囲で実現させている。行きたい場所や興味のある事等を日ごろから把握し、一緒に出かける等支援されており、今年度は「夢の実現」としてドレスアップに挑戦される姿や「花みずきくま川鉄道の旅」など、したいことを見事に実現させている。	管理者は、認知症の進行に伴い、思いを発することも難しくなり、日々の生活の中で察してほしいとしている。職員も余裕を持って見守りを重視したいとしており、今後も入居者の思いや希望の実現に大いに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の基本情報・個人記録等を職員が常に共有し、日々のケアに繋がるようにしている。 気になる事があったらその場で随時話し合うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の出社時にはまず先に入居者様へ挨拶を行いその日の心身状態の変化に気付くように努めている。 業務前には日誌・受診報告書等を読み、申し送りを行い一人ひとりの状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様・職員との話し合いの場を設け、援助方針や目標を立てている。 職員が日々の関りを通して気づき・様子を毎月のカンファレンスで話し合い、より良いプラン作成へ繋がれるように努めている。	本人・家族の意向を基にしたプランを作成。毎月のカンファレンスでの話し合い、プラン作成に反映させている。介護度の変更に伴う見直しや、定期的(半年毎)に見直すなど現状に即した詳細かつ具体的なプランが作成されている。また、看取り期には看取り介護計画書を作成している。	入居者の発語を引き出し夢を語られる姿や、身体機能・認知機能の維持に向けたプラン等の結果が如実に表れている。次のステップアップとして理念にも即したプランが立案されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりの健康状態・日々の生活等を記録し、常に入居者様の状況に応じた支援に繋がれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の関りを通して入居者様のニーズを引き出せるような関係づくりを心掛け、これによって生まれたニーズに答えられるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の行きたい場所・興味などを日々の生活の関わり合いの中から把握し思いを見つけ出す努力をしながら、一緒に出掛けたり、地域に交わりながら楽しみのある生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医にて日常的な診療をしていただいている。 急変時等には往診等していただけるような関係づくりが出来ており。その他の専門医を受診する際には主治医に報告・相談を行い、スムーズな受診に繋げて頂いている。ホームでは続けて良い信頼関係を築けるよう努めている。	現在は本人・家族の了承のもと全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、定期受診を職員が同行し、必要に応じて往診を受けている。 ホームに理解のある協力医の存在は心強く、日頃から相談に応じてもらいながら適切な医療支援ができるようにしている。受診結果は家族へも伝え、職員間では受診報告書にて共有を図っている。歯科についてはこれまでのかかりつけ医を可能な限り支援しており、往診や受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師へ入居者様の心身状態の変化や・気づきを伝え、入居者様が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は入居者様のストレスや負担軽減になるよう、面会を密に行い、早期退院できるよう働きかけている。 また、看護師との情報交換にて、家族様とホームにて連絡を取っている。 退院後も情報提供・共有のもと、早期復帰に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、看取り指針をもとに終末期まで支援させていただく事を説明している。家族様の気持ちに寄り添い、重篤化・終末期に向け、家族様。主治医と繰り返し納得されるまで話し合いを行い、支援をしている。 ホームで取り組めること(喀痰吸引研修受講など)を増やし、出来るだけ最後まで協力医と共にチームで寄り添ったケアが出来るように支援している。	入居にあたり、看取り介護指針をもとにした説明と同意を交わし、段階に応じ主治医を含め話し合っている。看取り支援については、主治医と職員がチームとして、本人・家族に寄り添った支援に努めている。本年度は開設当初から過ごされた方の最終を支援し、入居者も最期の別れの時間を持たれている。支援後の家族よりの感謝の言葉に職員も安堵しており、家族・主治医・職員がチームとして入居者の最終章に寄り添っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救急救命講習を受講しており、緊急時のマニュアルもすぐに閲覧できる場所に準備している。 定期的に勉強会・講習会に参加し全ての職員が初期対応・救急対応への実践力が身につくよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定した防災訓練を年に数回計画し、実行している。 近隣住民・ご家族様と合同で避難訓練を行ったりと、地域との連携強化に努めている。 また、もしもの災害時には町と連携し、町指定の福祉避難所としても活用できるようにしている。	消防署からの立ち入り検査及び消防署の参加による昼間想定総合訓練と、運営推進会議とイベント(十五夜綱引き)と一緒に組み入れた夜間想定訓練等地域も巻き込みながら取り組んでいる。また、あらゆる災害を想定した訓練は、有事の際職員が落ち着いて誘導が出来るよう意識強化と日頃から地域との連携に反映させ、備蓄している内容については、職員も周知しており、家族へも報告している。	福祉避難所として町と協定を結んだホームである。今後も繰り返しの訓練により有事に備えていただきたい。また、オール電化であるが、今後もコンロの周りの整理やコンセントの埃など意識を持った安全管理に努めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損なわないような声掛けを努めている。 重要な書類などは同意のもと保管・管理をしている。 また、職員には守秘義務を徹底するように指導し、個人情報漏洩しないよう周知徹底している。	入居者へのゆっくり関わりのケアが、尊厳にも繋がるとしているとともに、その人らしい暮らしができるよう寄り添いながら支援している。呼称は苗字やさん付けで対応しているが、○○ちゃんでの呼び方を希望される方もあり、その場合は近くで呼ぶ時のみ、ちゃんに対応している。写真掲載など個人情報の使用については、家族の承諾を得ており、職員の守秘義務についても、周知徹底を図っている。	職員も入居者の横に座ったり腰を下ろし一緒に休憩をとることで、全体がゆっくりとした時間や光景になると思われる。今一度、業務を振り返り、ゆっくりとした時間を作ることができないか検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを気軽に伝えられるような関係づくりに努めており、入居者様が自ら意思にて決定できるような工夫を行い、それを日常生活の中で生かして過ごされるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、本人様のペースにて1日を過ごされるように支援している。 外出等の要望にも柔軟に対応するように支援している。 入居者様の健康状態によっては希望に添えない部分があるかもしれないが、しっかりと内容を説明し返事を頂くように支援している。 入居者様一人ひとりの希望に沿った支援・要望を聞けるよう、職員も努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室にご家族様や職員が付き添って行ったり、馴染みの訪問理容を利用して関係が途切れないように支援している。 毎日の洋服も本人様の好みの服を選んで着て頂き、お洒落を体感出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望に合わせ、下ごしらえ・味見・台拭き・後片付け等をしていただいている。 また、近所の方より野菜を頂いたり、ホーム菜園で収穫した新鮮で旬な野菜を使用するようにしている。 職員も一緒のものを食べ、会話に生かしている。	専任者を中心にした食事は、地元の食材や畑で収穫した野菜、近隣者からの差し入れも多く、料理の幅も広がっている。入居者はお盆拭きや味の評価、お茶の袋詰め、ラッキョウやカブの漬け物作りなど出来る事で食への関わりを持っている。職員も同じものを一緒に摂っており、「今日のいちごは小さか」「残さず食べなん」など、入居者の一言一言に笑いが飛び出し、和やかな食事を垣間見ることが出来た。	地元の特産である椎茸(方言でなば)の下ごしらえを一緒に行ったり、朝のおやつ締めには手作り漬物とお茶を楽しんでいる。今後も、食材の呼び方や調理方法など地元ならではの食事支援を継続していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、一人ひとりの習慣や状態を把握し、食事形態にも柔軟に対応するように努めている。 水分摂取もチェック表を設け、把握しながら摂取して頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来るだけご自分にて口腔ケアをして頂き口腔内を清潔に保てるよう支援している。 不十分な個所については職員にて仕上げを行い支援している。 また、毎日就寝前には消毒剤により義歯の消毒を行っている。 自歯の方には残っている歯を大切に残せるよう馴染みの歯科医院にて指導してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を設け、一人ひとりの習慣・状態を見ながら声掛け・誘導などを行い、失敗し自尊心を損失させないように工夫し取り組んでいる。	昼間はトイレでの排泄を基本としている。夜間は殆どの方がリハビリパンツであるが、2名の方が安全面や安眠からポータブルトイレを使用されており、使用後は洗浄により清潔に管理している。声掛け・誘導、排泄用品の組み合わせ等の個別支援から、オムツ使用であった方がリハビリパンツとなるなど、本人の自信回復や、家族の負担軽減に繋げている。トイレは3か所設けられており、食後や就寝前など、時間帯や使い慣れた場所へ個々に応じて誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション活動にて運動や体操・マッサージ等を実施し体を動かして頂いている。 また、水分補給・食物繊維の多い食事で、出来るだけ自然に排便が出来るように工夫をしている。 それでも便秘が続く時には主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員と1対1でゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。 通常は1日おきに交代で入浴して頂いているが、基本は希望により何時でも入浴可能な準備をしている。 入浴剤・菖蒲湯・柚子湯等にて季節感を味わって入浴出来るように支援している。 拒否があった場合にも強制せず、シャワー浴・足浴・清拭等に対応し清潔維持に努めたり、トイレのタイミング等に声掛けを行ったりと工夫しながら入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は1日おきを基本とし、職員と1対1でゆっくり湯舟に浸かってもらうようにしている。湯加減も希望を聞いたり、湯温を一緒に確認してもらうなど個別に対応している。拒否がある場合は、翌日に変更しているが職員の負担にも配慮している。冬場は寒さもあり拒否される方もおられるが、職員との会話を楽しみ、長く入っておられるようである。浴室は毎回掃除を徹底し、気持ちよい入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が入居者様の1日の暮らしの流れを把握し、申し送り・カンファレンスにて繋げるにより、より安心して過ごし易いような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書やカンファレンスにて処方薬の効果・副作用の説明を行い、服薬忘れ・誤薬等の無いようチェック表を設けている。 また、服薬後の症状の変化・確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・下ごしらえ・片付け等の家事動作など、役割を持って頂き、生活歴を生かした支援に努めている。 日常の生活の中で本人様の力を発揮できるような支援をしている。 また、好みの服の購入・近所への散歩・誕生会等の行事を行い、楽しみとして気分転換できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望を日々の関わり合いにより汲み取れるような支援をしており、希望時には何時でも外出できるように支援している。 馴染みの場所や祭り等への行事ごとへの参加には積極的に行っている。 外泊等、ご家族様の協力もあり助かっている部分もある。	地域の協力や職員のチームワークによって普段いけないような場所へも積極的に出かけている。「特に秋は忙しい」と、管理者の言葉が物語るように、三十三間堂観音参り等年間を通して多くの外出を支援している。また、地元多良木駅から「花みずきくま川鉄道の旅」と題し、JRでの鉄道の旅を楽しむなど、職員のアイデアを活かした企画に、入居者も毎回大満足のおようである。家族の協力として、寒くない時期に外泊や祝い事、仏事での帰省など多くの協力が得られている。	玄関内には腰掛け椅子が設置されており、靴の脱ぎ履きで気軽に散歩が出来るようにしている。季節の花見や地域の祭り、マルシェでの交流など、地域の協力による外出も多く、今後も変わらぬ取組を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は金銭トラブル防止のため個人的には所有されてはいないが買い物・朝市等の際には、お金を持って頂き買い物出来る環境を提供し、お金を使って買い物をする喜びを味わっていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等の郵便物の制限はなく、自由にさせていただいている。 本人様のご希望にて電話を掛けたり、ご家族様からの電話の取次ぎなどをし会話を楽しんで頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには車いすに対応出来るようスロープがあり、足が不自由な方のために全館手すりを用意している。廊下にもエアコンを取り付けており、冬場の寒暖差を解消している。 ゆっくりと寛いで過ごして頂けるようにホールの環境も整えている。 天窓からの採光・ホール・居室は掃き出し窓にて田舎特有の四季の景色・鳥や虫の声も身近に楽しめる。 季節の花や、旬の野菜を飾ったりして、季節感を感じて頂けるような工夫もしている。	ホーム内は空調・換気扇フィルター、排水溝や洗濯槽の掃除などをチェック表や注意事項の掲示により臭気なく、清潔な環境に努めている。食堂を兼ねたホールは大型のテレビが設置され、入居者が寛いで視聴されている。また、入居者とともに作った飾り物が季節を先取りする等職員のアイデアが活かされ、満開の桜がホーム内をより明るくしている。ホールを中心に左右に居室が配置されるなど、ゆとりある空間であり、夜間は特に居室からの音やトイレ移動など安全面に配慮して業務にあたっている。	職員は敷地内の野菜や草花なども環境に取り入れ、より身近に季節を感じてもらっている。これらは入居者にとっても馴染みのものであり、居心地の良さに繋がっていると思われる。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは広々とし、ゆっくりと寛げるスペースを確保している。ソファ席で雑談しながら好きなテレビを見られたり、食事テーブルを囲んで雑談や塗り絵等の作業をし過ごされたりと入居者様同士が好きな場所で思い思い過ごすことの出来るように支援している。 また、一人になりたい際にはカウンター席を活用されたり居室にてゆっくりと過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族様へ居室は自宅の延長で1つの家として使って頂きたいとお伝えし、本人様にとって居心地のいい環境になるように今まで自宅で使用しておられた、馴染みの家具等を持ち込まれ本人様の過ごしやすい場を提供できるように支援している。	各居室前には職員の提案により、時期的に“鬼とひいらぎ”(入居者作品)が飾られ、季節により変更されている。家族には馴染みものや使い慣れたものの必要性を説明。テレビや写真、古いアルバム等家族の協力により持ち込まれている。居室を認識する工夫として「〇〇の部屋」と明記し、居室担当職員により掃除も行き届き、居心地よく過ごす環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリー化されており、手すりやスロープもあり、入居者様に安全な作りである。 ホールからデッキまでは自由に行き来でき、暖かい日にはデッキにてお茶をしたり、レクリエーションを楽しまれている。 出来る限り入居者様には残存能力を生かせるような支援を心掛けている。		